

## 作者プロフィール

柚木 文夫氏

千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成2年退官 1958年防衛大学卒  
元防大山岳部監督 現自衛隊山岳連盟会長

## 針ノ木岳に花を愛でる



針ノ木岳(赤沢岳から)

良い。兩岸から聞こえるウグイスやイワヒバリの協奏曲に心が和む。9時50分、アイゼンを脱ぎ、後はガレた斜面のジグザグ登りとなる。チングルマ、シナノキンバイ、ミヤマキンポウゲ、モミジカラマツなどが目を楽しませてくれる。11時、針ノ木小屋到着。

小屋に荷を置き蓮華岳に登る。蓮華岳はコマクサの宝庫である。山頂付近の岩礫のあちこちから健気に顔

7月下旬、北アルプス・針ノ木岳(2821 葎)に出かけた。夜行バスを扇沢で降り、初日は針ノ木雪渓から蓮華岳に登り針ノ木小屋泊まり。2日目、針ノ木岳を越え、国境稜線を縦走して種池山荘泊まり。3日目は爺ヶ岳往復の後、扇沢に下る計画。

早朝6時、扇沢を出発。大沢小屋へはブナ林の中の快適な登りである。時折イワナシの可憐な花が目をはく。大沢小屋からは沢沿いの登り下りとなる。タテヤマアザミ、オヤマリンドウ、ニッコウキスゲなどが色鮮やかである。



8時10分、針ノ木雪渓末端に着きアイゼンを着ける。雪渓を渡る涼風が心地

をのぞかせる薄紅色のコマクサの群落に感動した。



翌日は朝6時に小屋を発って、針ノ木岳、スバリ岳、赤沢岳、鳴沢岳を縦走して午後3時に種池山荘に着いた。途中、針ノ木岳信濃側斜面一帯のシナノキンバイの大群落には息を呑んだ。稜線路の足元を彩るコ



赤沢岳(スバリ岳から)

イワカガミ、アオノツガザクラ、ミヤマオダマキなどとの出会いがまた楽しかった。種池近くでは、キヌガサソウの優雅な集団の出迎えに感激した。

また、ガスの晴れ間の赤沢岳山頂では、青緑色に輝く黒部湖を隔てた剣岳の威容に圧倒された。

次の日は爺ヶ岳に登り、柏原新道経由で昼過ぎには扇沢に下山、花を堪能した山旅を終えた。



蓮華岳(柏原新道から)